

『G R—同志社大学グローバル地域文化学会 紀要—』 創刊によせて

同志社大学 グローバル地域文化学会会長
松本 賢一

2013年4月1日、同志社大学14番目の学部としてグローバル地域文化学部が誕生した。これに伴い私たちはグローバル地域文化学会を創設し、『G R—同志社大学グローバル地域文化学会 紀要—』を刊行する。〈G R〉が〈global〉と〈regional〉の略語であることを絵解きしてもなお、グローバル地域文化学というものがいかなる学問領域を構想し、この紀要がどのような論集を目指すかについては説明が必要であろう。

過去20年余、国民国家の枠を超えた人やモノ、金やサービスの動き、またITの急速な発達による情報のボーダーレス化が世界で急速に進んだ。グローバル化と呼ばれるこのプロセスは今や世界各地域の生活に深く浸透し、影響を及ぼしつつある。しかしながらこの動きは、世界の諸地域で抵抗や軋轢、更には紛争さえも引き起こすに至った。本学会はグローバル化の進行する世界の状況を現実として受け止め、しばしば軽視され不正確に理解されてきた地域固有の文化を研究し、グローバルな視点から捉え直すという複眼的な研究を目指している。個々の地域研究のレベルでは従来にもあり得たこのスタンスをひとつの学会として構想することは、わが国において嚆矢であろう。

とはいえ『G R—同志社大学グローバル地域文化学会 紀要—』は、一見グローバルな視点とは関わりのない、世界諸地域域の文化に関する論考にも開かれている。地域文化とは言語、宗教、芸術、歴史的特性等々が折り重なったものであり、これを深く理解すること自体が相応の困難を伴う。地域文化を対象とするたゆまぬ研究は、グローバル地域文化学の土台部分をなすものである。

『G R—同志社大学グローバル地域文化学会 紀要—』はいま船出する。この船が今後いかなる航跡を残してゆくか——。学会員諸氏の御助力を請うものである。